

東由利町報

No. 220

昭和50年(1975)3月1日

発行 秋田県東由利町役場 印刷 KKB本間印刷所
毎月1日発行(1部20円)昭和42年7月21日第3種郵便物認可

町の概況

人口総数 6,677
うち男 3,263
うち女 3,414
世帯数 1,515
面積 148.51ha

本町、県町村会の
「優良町」表彰に
秋田県町村会では、行政財政全般にすぐれた実績をあげている町村を選定して毎年表彰しているが、このほど開催された昭和四十九年度の定期総会において、本町が表彰された。

町では、これを契機に健全財政の堅持と町民の福祉向上につながる行政推進に一層配慮を加えて行くことにしています。

「税」申告期限は
3月15日です
町民税や所得税確定申告は三月十五日が期限です。申告相談をうけないでしまった人でも期限までには必ず申告しましょう。

献身の医療活動42年

—小松三治郎氏—

読売医療功労賞、受彰



高令をものともせず町民の診療に当たる小松氏

四十数年の長期間にわたり献身的に本町民の医療活動に従事、地域の保健福祉の向上に尽力されて来た小松三治郎氏(下小路70歳)が、このたび読売新聞社主催の第三回医療功労賞(秋田県二名)受彰の栄誉に輝きました。

「医療功労賞」は、読売新聞社が、厚生省・日本国際連合会・日本テレビの後援、顕彰するために設けた表彰制度で、今年が第三回目にあたり

同賞は、困難な環境の中で長年にわたり医療活動に従事した功績を表彰するものです。小松氏は「健康に恵まれたため今日まで仕事をさせていたことができた。戦前から戦後にかけては、口に出して言うことができないような苦しみがありました。このたびそれを認められたことは、とてもうれしく、受彰の喜びを語っています。戦中、戦後の混乱期に、所得の低い人たちに無料で診療に当たると、物心両面で博愛の手を差のべた小松氏の人間愛は町民周知の事実であっただけに、今回の晴れの受彰に對して町民たちから自分のことのように喜ばれ、大きな祝意が寄せられています。」

自治発展にも貢献

この間、優生保護法の指定を受けたり、黒瀬診療所長に就任するかわり、司法保健委員、保護司、農地委員、村長、人権擁護委員を歴任、保健医療の向上とともに地方

朋楽荘「老人本位の設計だ」

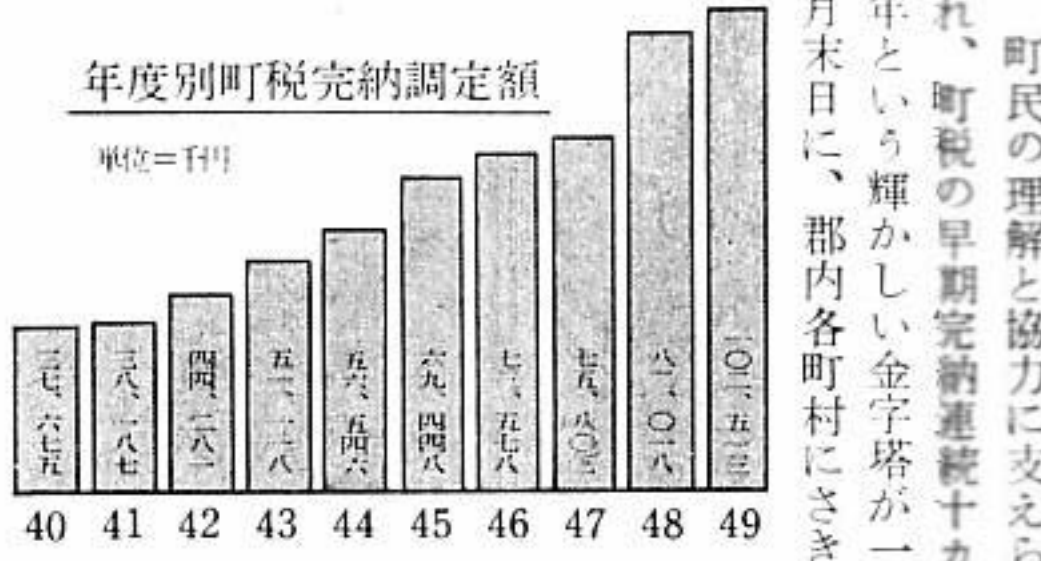
施設配慮を喜ぶ老人たち

先月一日にオープンした老人いこいの家「朋楽荘」は、明るい施設と静かな環境がうけて連日諸会合や研修の場にも利用され、老人のために無料で解放されている月曜は町内の老人クラブ員らが団体で利用するなど当初からにぎわいを見せています。

実質的な最初の解放日となつた二月十日は相にの風雪マイクパスで施設を訪れ、でしたが、蔵地区老人クラブくつろいだ一日を過ごしました。

輝く納税成績

町税 早期完納10カ年達成



町民の理解と協力に支えられ、町税の早期完納達成十カ年という輝かしい金字塔が一月末日に、郡内各町村にさきがけて樹立されました。

四十九年度の町税は、前年度比二〇・〇増に、経済事情が高度成長からゼロ成長に転換を迫られるなどのきびしい情勢下で達成された偉業でもあるだけに、各町村から注目を集めています。

小野税務課長は「一にも二にも町民各位の、納税に対する理解の賜です」と語り、この輝かしい金字塔を支えに十一年目以降の早期完納達成へ意欲を燃やしています。

各年次ごとの早期完納達成率(調定額を上回った年)は、

年度	早期完納率
四十	三六・六
四一	三八・八
四二	四二・二
四三	四三・八
四四	四四・六
四五	四六・八
四六	四七・八
四七	四八・八
四八	四八・八
四九	四九・八

調定額は上図のとおり。



冷水魚のふ化順調

昨秋、町の助成をうけて大吹川に完成した冷水魚のふ化施設(山田菊男さん経営)では、雄勝町や象潟町から購入した十八万粒の種卵から順調にヤマメの稚魚が誕生、元気に育っています。

ヤマメは水温十度前後の冷水溪流に生息する。成魚は、雄勝町や象潟町から購入した十八万粒の種卵から順調にヤマメの稚魚が誕生、元気に育っています。

「牛の飼育管理を良好に」
成果をあげた講習会
二月十八日朋楽荘を会場に由利農業共済組合東由利出張所主催の「牛の飼育管理講習会」が開催され、町の畜産を担う人たちが二十人余りが出席して熱心に受講、大きな成果をあげました。

同講習会は、本町で肉牛や乳牛の飼育事故が多発傾向にあることを重視して由利農業共済組合畜産診療所(杉江謙一所長)が行った損害防止事業の結果が出たことにより開催されたもので、同所長の講義やスライドを使って二時間余にわたり飼育事故の未然防止のための飼育管理技術についてみっちり学習が行われました。

疾病多発の原因究明のため血液検査や寄生虫卵検査を手がけ、当日の講師となった杉江先生が診療所長は「二つの検査を行ったが、いずれも六十近い高率の異常が発見され飼育管理面の改善が痛感させられた。畜産経営を伸ばす最大の条件は、牛を良好な健康状態で飼育することであり、毎年子牛を生ませることにある」と力説し、飼育管理を投げやりにならないよう呼びかけに主眼点では、今後も開きたいとしています。

農業共済組合町出張所
単独電話183番開通
役場庁舎に隣接する団体事務所の電話回線が少なく不便をかかっていたが、このたび、由利農業共済組合東由利出張所に単独電話(一八三番)が開通、不便が軽減されることになりました。

同出張所にご用のむきは、一八三番を呼び出すようのもてまています。

東中役員選挙

クリーン選挙の見本

公約本位、立会演説会も

四月十三日には知事と県議の選挙が予定されていますが、これより一足早く、このほど東由利中学校で生徒会役員選挙が行われ、生徒たちはクリーン選挙の見本を示したと意気盛んにしています。

同生徒会の役員選挙は、生徒会に設けられた選挙管理委員会によって、公職選挙法を簡略化したような独自の選挙規則に基づいて行われ、ポスターの掲示や立会演説会の開催など大人顔負けの選挙運動も

行われました。

体育館、廊下など校内随所に張り出されたポスターは、大ききや様式の制限がないらしく、それぞれに支持者のアイデアが余すところなく盛り

込められていました。

公約ポスターには明るく楽しい学校、生き生きとした学校を築き上げよう、当面する校内問題を扱った公約が切々と書き込まれていました。

また、候補者一人三分以内の制限時間で行われた立会演説会には、火の気のない体育館で行われたにもかかわらず、防寒衣をまとって全校生徒が参加、十六人の候補者とその支持者たちの熱っぽい演説に

耳を傾けていました。

選挙管理委員の生徒たちは「義理や情実を廃し、公約本位で行われた同選挙は、大人の選挙で話題を呼ぶ買収や供応などの悪質な違反が一件もない真正正銘のクリーン選挙の見本です。」と、意気を盛んにしています。

同校の先生たちは「この子供たちが大人になったらぜひこのような選挙を実現してほしい」と期待を寄せていました。

選挙管理委員会では、該当者で詳しいことを知りたい方は早めに照会されたいとしています。

明正選挙ポスター

東中から47点



明るい選挙の推進を呼びかける東中生徒のユニークな啓発ポスターが、このほど47点も町選挙管理委員会に寄せられ、関係者を喜ばせています。

町選挙では、さっそく多くの町民が集まる会館等に掲示し、活用することになっています。

写真は、二年島山育夫君の作品

郵便投票(在宅)制度発足

適用は重度身障者だけ

身体に重度の障害があるため投票所に行けない人も投票できるよう郵便による不在者投票(在宅投票)の制度が設けられ、今月一日以降に告示される選挙から自宅等で投票で

住民サタ

旧通学路の除雪を

横渡 阿部長一郎

①旧下郷中学校の通学路(町道)の沿線には住家のほか部落の集会所である児童館もある。同町道の除雪を願いたい。

きることになりました。

この制度が適用になる人は身体障害者手帳または戦傷病

者手帳を持っている人で次に該当する人となっています。

身体障害者手帳のある人

②狭い町道横渡線に、毎日駐車車両があり除雪の障害になっている。防犯上の心配も大きい。町で指導されたい。

答 ①については、町の除雪計画外の路線ですが、集会所もあることなので、除雪車の都合をみて実施することになります。(実施済)

②については、車両の所有者を通じ、駐車しないよう協力を要請しました。

犬の放し飼いの取締り

沼 阿部 義直

犬の放し飼いの取締り。目立って来ている被害が、守られていないのが現状です。飼主が一層の自覚を促して行くようにします。

答 飼主は、鎖等で係留しておかなければならない(県条例)ことになっています。

出荷は県内外へ

同ふ化施設で生産された稚魚は、雪消えを待って一尾十円前後で県内外の各漁業協同組合を通じて放流用に出荷されることになりました。

一時は施設に泊り込んで来た山田さんは「初めてながら現在までのところは上首尾と言えそうです。問題はこれから、量産と出荷体制の確立を急いで行きたい」と、意欲をのぞかせています。

同施設で生産された稚魚は町や町内魚族保護組合の手により町内の石沢川支流に放流されたものと見られ、高級魚ヤマメが一般町民の食糧にぎわす日もそう遠いものではないとして、期待がかけられています。

生涯学習推進研究会

分科会でプラン練る

結果 今後の学習指針に

二月十六日、別荘で開催された町公民館主催の生涯学習研究会は、老人クラブ員・婦人会員・PTA関係者・各種学級生など二百人近くが参加、熱心に研究学習が行われました。

「生涯教育のめざすもの」と題した、県生涯教育推進本部参事佐藤順次郎氏の講演は、「生涯教育は人間の心を豊かにして美しく生きるために行なわれるもので、家庭教育が大きなウエイトを占める。夫婦仲がよく、仕事熱心で、笑みのある家庭には、思いやりがあり愛がある。その体認こそ生涯教育の本質である……」という要旨で、くだけたわかりやすい話法は、二時間近くの間、参加者を魅了しました。

引き続いて「生涯学習を広めるためには」という共同テーマで、老人・婦人・PTA関係者・若妻（各種学級生）の四分科会にわかれ、熱心な討議が行なわれました。

分科会終了後の全体会に発表された討議の結果は概ね次のとおりで、主催側では今後の生涯学習を進めるための貴重な指針になったとして高く評価されています。

「国保の被保険者証」は切符と同じ
受診のつど提示を

最近、町内や出かせぎ先の事業所で国保以外の健康保険に加入された方やそのご家族がなくなりましたので、このようになりつづけて引き続き診療をうけると、後日かかった医療費の全額を個人で負担しなければならなくなります。

事業所の健康保険に加入した場合は国民健康保険の資格がなくなりますが、このようになりつづけて引き続き診療をうけると、後日かかった医療費の全額を個人で負担しなければならなくなります。

- ① 趣味活動を活発にしたい。
② 小地域での濃密な学習グループの形成を考えた。③ 学習の中にリフレッシュや不用品交換、食生活と健康など実践学習を計画したい。④ 一人暮らしの老人の慰問や生活の世話を手がける。など。
- ▼第三分科会（若妻グループ）
① 婦人学習の場をより多くし、自発的な活動を心がけたい。
▼第四分科会（PTA関係）
① 集いの場、あり方に工夫して行きたい。など。

こうしたことを未然に防止するためにも、受診のつど被保険者証を提示するよう、特に注意されています。また、国保以外の健康保険に加入された方が必要です。

なお、次の場合は必ず医療機関に被保険者証を提示するよう、ごまかしてはなりません。

① 初めて診療をうけるとき。
② 被保険者証が書き換えられ



200人近くが参集盛会だった生涯学習集会

四月から新保険証に国民健康保険の被保険者証が四月一日から記号番号などが一新された新しいものと切り換えられ、古い被保険者証では受診できなくなりました。

なお、新しい被保険者証は今月中に各該世帯に配布の予定です。

交通災害 全町民が加入を

交通事故追放が国民の悲願となつて、事故防止の意識が年々高揚している反面、悲惨な事故が相次ぎ発生しています。

いつ、わが身にふりかかるか予測のつかない事故に備え、安んじ、万が一の保障に充てようとして、秋田県交通災害共済は、年々加入者が増えて



勤労を喜びながら校舎の除雪にあたる住小児童

住小で愛校の除雪

手慣れたスコップさばき
「勤労」通じ強い子に

本校では、これまですでに数回にわたって父兄たちの手で除雪作業が行なわれていたが、今回は愛校日の行事として教師と児童たちが除雪に当たった。

二月十四日、二月十四日は、開校記念日にあたる同校では、それにならんで毎月十四日を愛校日に定め、夏季は大掃除、冬季は除雪など、勤労を通じた校舎の美化活動が続けられている。

当日は曇り空に、児童たちはスコップを手に、校舎の周囲の雪を丁寧に掻き除けていた。

心ふれあいの場に教師たちが配慮

そうした生活の一面を反映するかのよう、都会の児童には真似のできないあざやかな手慣れたスコップさばきを見せる児童もいます。

児童とともに作業にあたっていた教師の一人小松忠正先生は、

交通事故は人災

根絶を誓い合おう

昨年一年間に発生した県内の交通事故は三千七百六十六件にのぼり、死亡が百四十四名、負傷者が四千九百九十一名に達しています。

それでも一昨年に比較すると、事故件数、死傷者の数が大幅に減少していると言われている。

しかし、本荘警察署管内では、国道七号線を中心に相変わらず事故が多発し、死者が一人、負傷者が二人に達しています。

慶弔だより

1月25日～2月20日

○出生 おめでとう

伊東 格 高村 文雄 長男
畠山 洋 玉新田 昭夫 長男
鎌崎 正人 松本 正一 長男
畠山 圭亮 山本 基保 二男
近江 崇博 奥ヶ沢 一男 長男
小松 美香 高戸 功 長男
工藤 美子 蔵 徳行 長女
大庭 拓矢 舟木 敏昭 長男

○死亡 お悔み申し上げます

浅田 トメノ 大塚 77歳
高橋 キチノ 玉新田 84歳
小野 喜代松 中ノ沢 84歳
小野 喜代松 宿 67歳

学校緑化コンクール 東中に「営林局長賞」

秋田県学校緑化推進委員会が行った昭和四十九年度学校緑化、学校環境緑化コンクールに応募していた東田利中が「環境緑化の部」で秋田営林局長賞に入賞、今年春、山本町で行われる全県樹木祭で晴れの表彰を受けることになりました。

昭和四十六年、統合新校舎建て来た環境緑化の実績がよ



PTA奉仕の芝居作業

火災の予防も

各地で火災が相次いでいます。火の元には十分注意するとともに、避難口の確保など十分にしましょう。

句集「蚊火」発刊



句作に励む阿部さんと全国大会の賞状

俳句界ではトップレベルにある俳人協会（水原秋桜子会長）主催の第十三回全国俳句大会で、地方予選を経た約三千句の中から特選（野村喜舟選）入賞を果たした阿部北郎（義直）さん（昭和50歳）が、これを記念して句集「蚊火」を発刊、関係者間で高く評価されています。

生活詠む力量に定評

北郎さんの句作は、その風土や生活に密着し、生活感情が深くにじみ出て、一点の揺らぎもない本格的な俳句の掬われ句である。と、その力量を称え、秋田魁新報は「どの句にもしりと重みを持つて奥深い」と句風を紹介しています。

句集「蚊火」は、昭和四十六年に阿部さんが自費出版した「春泥」に次ぐ二句集目で「春泥」同様、新聞俳壇や同人誌、多くの俳誌で選に入り、社会に紹介された俳句の俳句

阿部さんは「俳句は読んでみて、そうか、なるほど」と誰にでも解るよう詠むことだと思ふ」と「蚊火」の序で述べ、定型を守り、平易な中に新鮮な感覚を詠み込む姿勢を続けて行きたい、と述べています。

阿部さんは「俳句は読んでみて、そうか、なるほど」と誰にでも解るよう詠むことだと思ふ」と「蚊火」の序で述べ、定型を守り、平易な中に新鮮な感覚を詠み込む姿勢を続けて行きたい、と述べています。